

図書室おすすめの本＊中学生向け＊ 2020.6①



【 雨 特集】

雨がしとしと… そんな時期にはゆっくり本の世界へ出かけませんか？



「死神の精度」 伊坂幸太郎 著 文藝春秋

音楽好きの“死神”千葉は、強烈な雨男で彼が人間界に現れる時はいつも雨。彼の仕事は、7日後に死ぬ予定の人間に近づき、『実行＝死』か『見送り＝生かす』を判定すること。ある時、判定を下す7日目にターゲットに思いがけない運命が訪れ…
クールでどこか奇妙な“死神”千葉が出会う6つの人生の物語。CDショップに入りびたり、名字が町や市の名前で、受け答えが微妙にずれていて、素手で他人に触ろうとしない---そんな人物が身近に現れたら、それは“死神”かもしれない…

「言の葉の庭」 新海 誠 著 角川文庫

「また会うかもね。もしかしたら。雨が降ったら…」
靴職人を志す15歳の高校生タカオは、雨が降るといつも学校をさぼって公園で靴のスケッチに熱中していた。そんなある日、彼は27歳のユキノと出会い、雨の日だけの再会を繰り返しながら少しずつ打ち解けていく。迷いながらも前に進もうとする2人は、どこへ足を踏み出すのか…
劇場アニメーション『言の葉の庭』を、監督自ら小説化。アニメにはなかった人物やエピソードも。

「いま、会いにゆきます」 市川拓司 著 小学館

大好きだった妻の滯が亡くなって1年。巧と6歳になる一人息子の佑司は、ひっそりと暮らしていた。
再び巡ってきた雨の季節の週末、いつも通りの散歩に出かけた町はずれの森で、この父と子二人に奇跡が訪れる…
哀しい未来を知りながら、それでも愛しい存在に向かって発せられる言葉。その深く強く優しい決意。
日本中をやさしい感動で包んだ大ベストセラー。2004年映画化。

「雨月物語」 金原瑞人 著 岩崎書店

芦田愛菜ちゃんもハマった『ストーリーで楽しむ日本の古典』シリーズ。中高生に人気の作家たちが、大好きな古典を自分なりにアレンジして語る古典シリーズ。
今作は、「青空のむこう」や「パーティミアス」等の翻訳で知られる著者のユニークな現代語訳。文芸部の生徒たちの発表形式で、今風の親しみやすい言葉で古典が語られていく。